



「Merry」な笑顔

「あなたにとってMerry (メリ)とは何ですか?」
この単純な質問を街角の人々に投げかけ、彼らの笑顔の写真をとる。本人の夢や希望など直筆のメッセージを集めて、街中に展示する。

「Merry」とは、メリークリスマスやメリーで、幸せな、楽しい、陽気なといった意味の言葉である。笑顔の写真を撮るだけでなく、「夢は地球を明るくすること」「平和が一番」など、それぞれのメリー観を写真の下に添える。これが四年ほど前から継続中のプロジェクト「Merry」である。

「人々の笑顔で街を元気にしよう」というコンセプトのもとに、阪神・淡路大震災後の神戸、米中核同時テロ一年後のニューヨーク、そして長引く不況で元気がない東京の各所で、笑顔のコミュニケーションアートを展開してきた。コミュニケーションアートとは、さまざまな人々が笑顔とメッセージを通して積極的にプロジェクトに参加し、その意義やコンセプトを共有することによって初めて成立するものと私はとらえている。パブリックスペースを使った作品展示は、不特定多数の人々の目に触れやすいように、反応が返ってきやすい。街全体をギャラリーに変えて、社会や企業を巻き込んだプロジェクトにしたかった。

私はこのプロジェクトで四年間にはば一万人の世界中の笑顔



みずたに・こうじ 昭和二十六年生まれ。ニューヨークADC国際展金賞、ワルシャワ国際ポスタービエ

アートディレクター 水谷孝次

明るいコミュニケーションアート

をフィルムに収めた。「言葉や文化の違いを超えて、すべての人を幸せにさせる共通の表現」としてのMerryは、私が米國を旅行した際に、偶然であった少女たちの笑顔に魅せられて写真を撮ったことがきっかけで始まった。以来、「はい、ニッコリー」といながら、たった二台のカメラで写真を撮り続けている。一台目では硬かった表情が、もう一台のカメラに持ち替えたとなん、自然な笑顔になるという法則がある。私は、元気が笑顔の彼らに大きな可能性を感じた。「日本の未来は大丈夫だ」と。

しかしながら、これからは、もっと具体的かつ主體的な形で、社会に貢献していくべきだと考えた。彼らの街を元気にするためにまずは、自分たちの足元にある環境を見直す必要があると感じ、Merryクリエーション・プロジェクトをスタートさせ、継続的かつ発展的にゴミ拾いを実施している。

この夏の「Merry in Tokyo」の開催に合わせて始められたこのプロジェクトは、毎月一度東京各地で行われ、毎回多くの人が参加している。参加者の多くは初対面であるため、始まって三十分くらいはぎこちない時間が続く。しかし、ゴミを拾って歩くうちに、次第にうち解けて、参加者の間にもMerryな空気が流れる。これこそが、私の考えるコミュニケーションアートという

ものである。

そして、次回(十二月二日)は、渋谷の街をターゲットとしたゴミ拾いを行う。青少年犯罪が増えるなど、街全体の環境が悪くなっているこの街で、若者を中心とした千人の有志が集まる。いま、多くの負のイメージのある若者たちが率先して環境に向き合い、そこにある問題の解決に取り組むこと。その姿が、街の人々の中にMerryな笑顔を生み出し、街や社会をMerryに変えていく。東京から日本や地球全体に至るまでの環境を考えた、元気な笑顔があふれる街づくりに貢献していくことを目指している。

「渋谷の街のゴミを、千人の仲間と一緒に拾いませんか?」。参加者は全員Merryのロゴマークが入ったおそろいのTシャツを着て、Merryな笑顔がデザインされた五種類(可燃、不燃、缶、ビン、ペットボトル)のオリジナルごみ袋を持って活動する。メインストリートを中心に振り分けられた幾通りもの道を、みんながゴミを拾いながら歩く。

ゴミを拾う行為自体よりも、その光景をひとりでも多くの人に見てもらいたい。そしてゴミを捨てない街の空気をつくること。すなわちMerryな街をつくらせていきたい。街がエンターテインメントな輝きを取り戻す。きれいな街に広がるMerryが、すてきな未来をつくるだろう。

